

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	木造建築構法 小委員会		主 査 名：源 愛日児 就任年月：2004 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	計画本委員会		委員長名：布野 修司
設 置 期 間	2004 年 4 月 ~ 2008 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	木造建築構法に関する構法計画上の下記研究課題を推進する。木造建築における新しい技術や構法開発の情報収集 1) 日本の木造軸組建築の構法史に関する研究 2) 木構造の研究者との連携と、研究の到達点に関する情報交換 3) 在来および伝統木造構法の性能の再評価と性能向上のための技術 4) アジア各地の木造建築構法に関する体系的な情報収集		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無		
	主査 源愛日児(武蔵野美術大学) 幹事 堀江亨(日本大学) 大橋好光(武蔵工業大学) 河合直人(独立行政法人建築研究所) 木村勉(長岡造形大学) 栗田紀之(きがまえ研究室一級建築士事務所) 黒坂貴裕(奈良文化財研究所) 黒田泰介(関東学院大学) 後藤治(工学院大学) 福濱嘉宏(福濱嘉宏建築事務所) 藤田香織(首都大学東京) 前川秀幸(職業能力開発総合大学校) 松留慎一郎(職業能力開発総合大学校) 山畑信博(東北芸術工科大学) 吉田倬郎(工学院大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	伝統木造構法WG：日本の伝統的木造構法の木造架構の変遷を調査、解明しようとする意図を持ちつつ、そのための基礎的なデータベースの作成を目的としている。		
2006 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	9 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1 .[研究会]「板倉の構法類型と地域特性」(黒坂貴裕氏博士論文)参加者数 18 名 2 .[公開研究会]山田昌久氏(首都大学東京 大学院人文科学研科 准教授)「日本原始・古代の分割製材法による針葉樹大径木の利用システム」参加者数 28 名 3 .[見学会]愛知県埋蔵文化財センターの出土資料の見学、発掘遺跡の見学 参加者数 6 名 4 .[研究会]「重伝建地区における修理・修景の考え方 -佐原の町並みの修理を例にして-」(長岡造形大・佐藤美佳(木村研)卒研論文)参加者数 14 名 5 .[研究会]「伝統的木造住宅に使用される部材の樹種選択に関する比較研究」(日本大学・白井旬(堀江研)修士論文より報告)」参加者数 19 名
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>目的1, 2については研究会1, 2, 3, 5によって一定の成果を得た。特に、伝統的木造構法の重要な成立要素である、木材資源の利用について考古学および伝統的民家の樹種に関する研究成果をもとに異分野間の意見交換を行うことが出来た。目的3と4に関しては今年度は進捗しなかった。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>1. 多岐に渡る目的を抱えているので、集約的な達成が難しいこと。 2. 考古学分野との連携は今後の進展が期待できる。 3. 伝統木造構法WGのデータ開示の方法を引き続き検討する。</p>

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。